



『“当たり前”への感謝』



熊本県
熊本神泉会道場
中学2年 大賀唯人

奉仕活動と聞いてあなたは何を思い浮かべますか。僕が思い浮かべるのは、朝六時からの清掃ボランティアです。これは熊本神泉会道場が毎年三月から四月にかけて、剣道環境を与えてくださる地域の学校・施設で行う活動です。“眠いなあ”と思っても、なぜか終わるときにはすっきりした気持ちになって、“また来週！”と言って帰ってしまうのは、強制ではなく出欠確認がないからかもしれません。こうして今年度もまた、これまでと変わらない一年のスタートでした。ガタ……ガタガタガタガタ……。

熊本地震の前震と言われる瞬間、僕は道場の稽古中でした。体育館は大きく揺れ、ガラスのきしむ音が鳴り響きました。先生の声ですぐに面を外し中央に集まります。いつまでも続く揺れで死ぬかと思いました。そして落ちついたかと思った二十七時間後の本震です。二度の地震によって、それまでの当たり前の日常は当たり前ではなくなりました。二週間以上学校は休みとなり、道場の稽古場所は避難所となりました。家が半壊し片付けに追われながら、生活の全てに不自由を感じました。夜もぐっすり眠れない日々を過ごす中、僕は“友達に会いたい”“学校へ行きたい”“剣道がしたい”と思っていました。全国の方々の支援により、食べ物も水も届き、道路も通れるようになる等、日々復旧していきました。そして学校が再開し、半月ぶりに稽古した時、練習できる事の有り難さを実感しました。しかし県内には未だ稽古のできる場所を探し、あちこち移動しながら過ごしている仲間もいます。多くの試合も地震の影響で中止となり、今では一つ一つの試合が開かれている事が毎年の当たり前ではなく、有り難い事だと感謝しています。

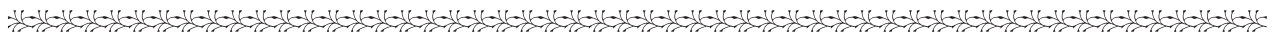
こうして二度の地震を乗り越え、いよいよ本格始動した僕を三度目の壁がおそいました。全力で先頭をきり稽古していたその時、倒れまいと支えに出した右ひじに激痛が走りました。一瞬で“やばい”と思いました。激痛と一緒に、皆に迷惑をかけてしまう事態である不安と、試合に出れなくなるだろうという思いで涙が止まりませんでした。そのまま病院へ行き、緊急手術となりました。先生方は、

「しっかり治せ。」

「ケガを最小限にできる体づくりをしていくことが大切だ。」

と僕の体を心配して言ってくださいました。退院後は剣道がしたいという思いで、自分のできることを見つけて動きました。又、剣道ができない期間をつかって、ケガをしない体づくりに努めました。今後、自分のケガで周りに迷惑をかけてしまうことのないよう、今は自分の体と上手くつき合っていくために何ができるのかを考えて行動しています。

さて、今年僕は、千葉・福島で行われたプラチナ未来人財育成塾に参加しました。そこで講師の小泉進次郎先生は自身の新聞配達の実験を元に、毎朝新聞が読めるという当たり前だと思っていることは、当たり前ではない努力によって支えられていると話して下さいました。今、僕が再び竹刀を握り開始線に立てるのは、支えてくれる家族や、指導して下さいる先生方、共に稽古に励



み、応援してくれるなかまのおかげであり、そして熊本地震の時に全国の皆様から支えていただいた当たり前ではない努力のおかげだと感謝しています。

今、熊本は未来に向かって一步一步がんばっています。苦しいことや辛い時期は成長するチャンスだと思います。努力していくことで、支えてくださる方々へのお返しになると信じ、僕はこれからの日々をかけがえのない毎日として大切に生きていたいと思っています。そして今、目の前にある当たり前は、当たり前ではない努力に支えられた有り難い日常であると皆に伝えたいです。